

小学生の「放課後教育拠点」と「子ども送迎タクシー」サービスの実証実験 ～刈谷放課後子育てMaaSプロジェクト2年目の取り組み～

(株)アイシン：大類 恵、川田 真由子
中央コンサルタンツ(株)：浅野 貴久、神谷 貴浩、羽深 茜

刈谷市 企画政策課：三浦 一将、中村 友洋
(株)名鉄スマイルプラス：富山 哲弘、浅井 純

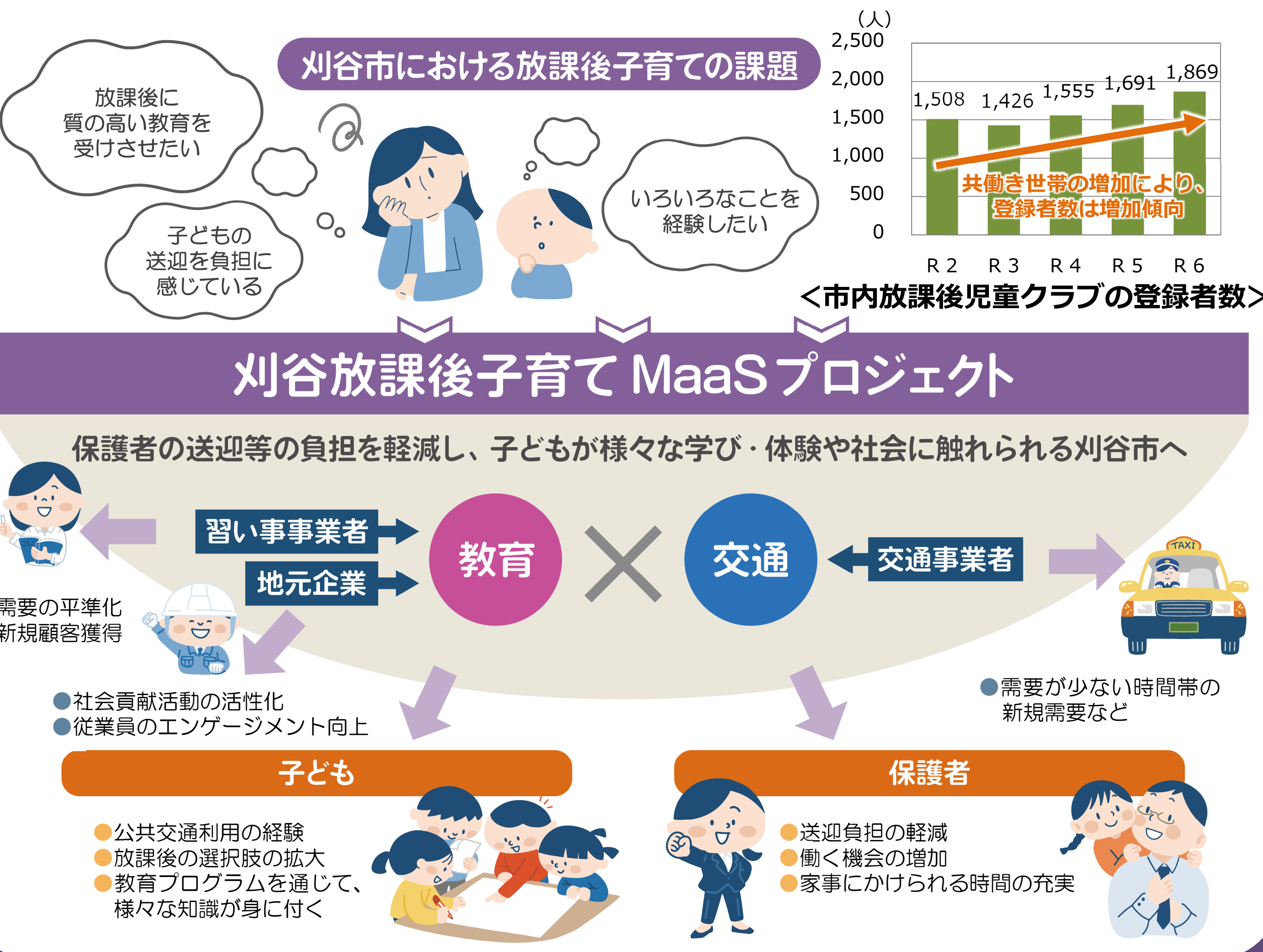
刈谷交通(株)：横山 宜幸、横山 太朗

R5年度実証実験
(プロジェクト1年目)
結果はコチラ▶





◆本プロジェクトの背景



◆令和6年度実証実験における目的・実施概要

令和6年度の取組：サービス有料化や地元企業等との連携を図った、
放課後教育×交通サービスを提供する実証実験

令和5年度の実証結果より、官民の共創で持続可能な事業体系の構築が課題となった。
刈谷市の既存施策（公共交通、放課後児童クラブ）と協調しながら、**地元企業や習い
事事業者と連携**することにより、**放課後教育サービスのさらなる魅力向上**や**交通サー
ビスの効率化**を図った実証運行を**有償で提供**する実証実験を実施した。

＜実証実験の概要＞ ※国土交通省の令和6年度共創モデル実証運行业務を活用

放課後教育サービス
（株）名鉄スマイルプラスによる教育プログラム
+ 地元企業による特別プログラム

集合
放課後児童クラブ
（亀城児童クラブ、小高原児童クラブ、住吉児童クラブ）
送迎
つながりステーション（放課後教育拠点）
通常時：産業振興センター会議室
イベント時：企業施設（一部）
送迎
ご自宅
送迎
習い事先
刈谷市内の習い事先（概ね2km圏内）
※希望者に対して一部実施
送迎
交通サービス
刈谷交通網による相乗り送迎
※子どもの乗降車、走行位置が把握できる(株)アイシンのシステムでタクシーを配車

対 象	3 小学校の放課後児童クラブの登録児童
実験期間	令和6年11月5日～12月19日 (7 週間)
実験場所	通常時：産業振興センター会議室 + 一部企業プログラム実施時：企業施設
利用料金	週1～週3回：26,000円～38,000円で それぞれプランを選択 有料
予約方法	プランに応じて事前に曜日予約 (都度予約は不要)
放課後 教育 サービス	宿題サポート、教育プログラム等 + 地元企業（計7社）による特別プログラム
交通 サービス	相乗りによる子ども送迎タクシー (放課後児童クラブ⇄つながりST ⇄習い事先orご自宅) ※習い事先⇄ご自宅への送迎を一部実施

◆令和6年度実証実験から得られた効果

実証実験 利用結果（登録者基礎データ）

登録者は**児童27名**、1～3年生が全体の80%を占める。
登録者のうち**37%は、令和5年度の実験参加者**。
利用プランは、**週1回利用が全体の44%**を占める。

＜利用プラン別登録人数＞

	週1回 (26,000円/人)	週2回 (33,000円/人)	週3回 (38,000円/人)
合計	12人	11人	4人
構成比	44.4%	40.7%	14.8%
R5年度実験利用者の 意向の構成比	20.0%	37.5%	42.5%

令和5年度の
意向と比較し、
少ない頻度を
選択する傾向

送迎は「**放課後児童クラブ⇒つながりST**」、「**つながりST⇒ご自宅**」への移動が大半を占める。
習い事先への送迎希望者は、**全体の26%**であった。

＜実証実験での送迎別の利用割合＞

人数：297人 (49.9%)
便数：148便 (48.4%)

人数：240人 (40.3%)
便数：109便 (35.6%)

人数：1人 (0.2%)
便数：1便 (0.3%)

人数：36人 (6.1%)
便数：30便 (9.8%)

人数：21人 (3.5%)
便数：21便 (6.9%)

※パーセンテージは、全体の人数・便数に対する割合
※つながりステーションを経由し習い事先への送迎などがあるため、便数は総数と一致しない

保護者への効果（事後アンケート調査より）

91%の保護者は「送迎の負担が減った」と回答。
使いたい時間（家事や仕事）を増やせたとの回答も多く、**保護者の暮らしに良い影響**があったと伺える。

保護者の暮らしの変化

送迎の負担が減った 91%
家事をする時間が増えた 55%
仕事をする時間を増やすことが出来た 41%
家族内の他のお子様との時間が増えた 23%
自分の時間が増えた 9%
特に変化はなかった 0%

＜実証実験による保護者の暮らしの変化＞

80%の保護者は「利用料金は高い」と回答。
一方で、**約96%の保護者からは「利用料金は得られた知識や経験に見合うもの」と**の回答が得られた。
本サービスは**有償でのご利用も一定数あり**、保護者には、**高い満足度**を感じていただけたことが伺える。

児童への効果（事後アンケート調査より）

全ての企業プログラムについて、7割以上の参加児童が「よかった」と感じており、特に**メタバースや企業施設で実施したプログラム（ハンドボール、仕事体験、工作体験）**は高い評価が得られた。
企業の活動を体験する機会を提供することは、子どもに対して**地元企業を身近に感じるきっかけとなり、将来の可能性を広げる教育的価値**があると考えられる。

企業プログラム

生成AIによるイラスト作成 (A社) [N=10]
メタバース空間での交通安全学習 (B社) [N=16]
ハンドボール選手とのボール遊び (C社) [N=25]
送配電事業者の施設見学、仕事体験 (D社) [N=24]
自動車関連部品企業の施設見学、工作体験 (E社) [N=11]
手話のあいさつ、音声認識AI紹介 (F社) [N=8]
防災カードゲームを用いた防災学習 (G社) [N=12]
上海駐在員の仕事紹介 (WEB会議) (H社) [N=8]

「一番よかったことシール」を貼った人数の割合

「よかったことシール」を貼った人数の割合

＜企業プログラムに対する児童の評価＞

ハンドボール
どうやったらボールを速くに投げられるかを考えた。

高所作業車
高所作業車は怖くなかった。電線を触ったら硬かった。

＜児童が描いた思い出の絵画、児童のコメント＞

刈谷市の既存施策への効果

＜公共交通＞
刈谷市地域公共交通計画に掲げる**“家族送迎の負担軽減など「子育てにやさしいまち」”**の実現に向けて、**子ども送迎タクシー**を提供する本サービスの活用可能性が見出された。

＜放課後児童クラブ＞
共働き世帯の増加に伴い、放課後児童クラブの利用需要が増加しており、**児童の新たな放課後の居場所を提供**する本サービスの活用可能性が見出された。

アフタースクール事業者（拠点運営）への効果

企業プログラムをサポートすることで、子どもに慣れていない企業担当者の負担を軽減でき、**より質の高い教育プログラムを提供**することができた。

交通事業者（相乗り送迎）への効果

ピーク時間帯ではない**新たな需要**が確認されたほか、児童との会話を楽しむ運転手も多くみられた。
施設間の**児童の受け渡しや駐車場への引率を運転手が担当**することで人件費の削減に繋がり、**運営の効率化**が図られた。

＜サービス利用側＞

保護者
子ども

送迎負担の軽減
働く機会、家事の時間創出

公共交通の利用機会の創出
放課後の選択肢の拡大

放課後のモビリティを高め、
様々な学び・体験の機会を創出

＜サービス提供側＞

放課後児童クラブ・公共交通
自動車・通信・インフラ・スポーツ...

刈谷市と本プロジェクト提供企業により、
＜放課後教育×交通＞サービスを提供

刈谷市

地元企業
市内に集積する自動車関連企業を中心に、
多様なプログラムを提供

官民共創

地元習い事事業者
子ども送迎タクシーを活用し、習い事サービスを提供

習い事事業者への効果

ヒアリング結果より、**本事業に対する理解や、可能な限り継続的に協力したい**といった回答が得られた。

地元企業（プログラム提供企業）への効果

刈谷市スマートシティ推進協議会の会員企業を中心に声掛けを行い、**各企業のノウハウを活かした教育プログラム**をご提供いただいた。（計7社・計8プログラム）
企業プログラムは**多様な要素**が含まれているほか、**企業施設でしか実施できない内容もあり、各企業の活動内容を刈谷市の子どもたちに伝える機会**となったと考えられる。
ヒアリング結果より、本プロジェクトに対する継続的な協賛（プログラム提供）の可能性について、前向きな回答をいただき、**地域で子どもを育てる機運の向上**に繋がった。

ハンドボールの試合体験
高所作業車体験
間伐材キーホルダー工作

企業要素	A社	B社	C社	D社	E社	F社	G社	H社
知力		メタバースの紹介		電気の仕組み紹介	歴史未来館の見学			中国文化の紹介
体力			ボール遊び					
表現力	生成AIでのイラスト作成			静電気工作・豆電球工作	間伐材工作	手話の挨拶	紙食器工作	
集団		交通ルールゲーム	チーム対戦		ジェスチャーゲーム	防災カードゲーム		
未来	未来の刈谷市を描く		ハンドボールの試合体験	高所作業車乗車体験	社員証作成			海外駐在員の仕事紹介
その他		交通安全教育		防災教育	環境教育	障害理解教育	防災教育	

※...産業振興センターにて実施 ...企業施設にて実施

＜ご提供いただいた企業プログラムの要素の見取り図＞

◆令和6年度実証実験における結論

- 令和5年度の結果を踏まえ、地元企業や習い事事業者との共創を図った本取組は、**サービス利用側とサービス提供側のそれぞれの立場で効果がみられ**、本プロジェクトの**社会的有用性**が確認された。
有償サービスでも一定の利用があることが確認できたほか、概ねの事業収支が把握できたことから、**分野横断的な庁内連携や補助事業の活用**を検討することによる、**事業の持続可能性**が見出された。

◆今後の課題

- 本プロジェクトの本格実装に向けては、既存施策（公共交通、放課後児童クラブ）との協調や、**事業の公平性**に配慮しながら、**市民の納得感が得られるサービスとしての制度設計**が求められる。
持続可能な事業として本格実装していくためには、2か年の実証実験の結果をもとに、官民の**役割分担や事業スキームの明確化**について、引き続き検討を進めていく必要がある。